

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-59

部門名: 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名: 高知県土佐市立新居小学校
活動名: チーム新居3C大作戦 変える 挑戦する 協同する教員集団に	
解決すべき課題: 子どもの実態「強み・弱み」から学校(教職員)の課題を明確にする (子どもの実態) ○とても素直で、やるべきことにはまじめに取り組む。学年を問わず仲が良い。 ▼自己肯定感、認められ感が低い。自信がなく主体性に欠ける。生活リズムが定着しない。 (学校の課題) 子ども一人一人への的確な評価(価値付け)ができていない。少人数のため手を掛け過ぎて、活動を子どもに任せきれない。子どもたちがさまざまな経験をする機会が少ない。	
目標・方針: 目指す子ども像を設定し、課題解決に向けた取組の柱を決め、全員がベクトルを合わせる (目指す子ども像) いろんなことにチャレンジする子ども～自分発見・友だち発見～ 特に重視したい(実現したい)子どもの姿: 自分からやりたい・やってみたいと言える子ども、やり続ける子ども (取組の柱) ①子どもの良さを発見し、タイムリーに言葉がけをする。 ②話し合う場では、教師は口出しをせず見守り、待つ。 ③子どもが立てた目標やチャレンジすることを掲示し、定期的に振り返る。 ※全教職員で決めた取組は必ず実践する。(学期末に実践交流会を行い、互いの実践から学び合う。)	
活動内容: 柱となる取組を1年間実践し、RPDCAサイクルを回しながら検証・改善を図り、次に繋げる 1. 年度当初の学級開きを行うまでに、転入教職員を含めた研修を行い、学校ビジョンシートを作成する。 ①本校の子どもの実態を確認し、学校の課題を洗い出す。 ②子どもの問題や学校の課題の解決に向けて、目指す子ども像を設定する。 ③目指す子ども像を達成するための取組の3本柱を決める。 ※学校ビジョンシートは拡大して職員室に掲示し、常に意識しながら1年間継続した実践を行う。 2. 1学期末と2学期末に実践交流会を行う。取組の柱に沿って実践した内容を各自がミニレポートにまとめ、交流し、中間検証を行う。他の教員の実践に学び、取り入れることができるものはすぐ実践してみる。 3. 3学期に本年度の取組の検証と計画の見直しを行い、次年度につなげる。	
活動の成果: チーム新居としての組織的な取組が子どもたちの変容に繋がっている ①教職員も子どもたちも、良い言動を見つけたらタイムリーに褒め、その内容を可視化することで、子どもたちの自己肯定感・自己有用感が高まってきた。 ②安心安全な学校環境をつくるため、「話をしている人の方につま先を向けて聞く」「名前をつけたあいさつをする」「ようきだね～の姿勢で迎えるようにする」に継続的に取り組むことで、不登校傾向だった子どもが毎日来るようになった。 ③学級活動や児童会活動等の話し合いを子ども主体で行うことが、子どもの企画・運営による活動を推進することにつながり、「もっとやりたい」と意欲的で楽しそうに活動している姿が多く見られるようになった。 ④各月・各行事等でチャレンジすることを教室に貼り、今何にチャレンジしているかを可視化することで、最後まであきらめずに努力するようになってきた。	
アピールポイント(アイデアや工夫): RPDCAサイクルを子どもやPTAの活動にも取り入れ、広げる ①目指す子ども像に迫るために必要な教育活動を厳選しスリム化を図った。 ②生活リズムチェックの結果から、子どもたち自らが課題を洗い出し、課題解決に向けた取組を企画し実践している。(60デーの取組等) ③PTA活動においても、生活広報部の保護者が生活実態調査結果を分析し、その内容をPTA通信に載せて基本的な生活習慣の必要性を啓発したり、生活リズムの定着に向け夏休みのラジオ体操を企画したりした。	

「チーム新居」のキャッチフレーズ 3C

Change! <変える> Challenge! <挑戦する> Collaborate! <協同する>

【学校ビジョンシート】 4月初めに全教職員で協議し作成

学校課題構造化(学校ビジョン)シート
土佐市立新居小学校

3 学校の基本課題(こんな児童生徒にしたい)
★
いろんなことにチャレンジする子ども
～自分発見、友だち発見～

今年度、特に重視したい(実現したい)子どもの姿
・自分からやりたい、やってみたいと言える子ども
・やり続ける子ども

取組の柱
1 子どもの良さを発見し、タイムリーに言葉がけをする。
2 話し合う場では、教師は口出しをせず見守り、待つ。
3 子どもが立てた目標やチャレンジすることを掲示し、定期的に振り返る。

【児童】 自信がない、失敗したくない、様々な経験の機会が少ない、人と一緒に安心
【教師】 子どもに任せきれない、的確な評価ができていない

【児童生徒の中心傾向問題】
① 児童生徒のよさ・問題
② 本校の児童生徒の中心傾向問題
③ 取組の柱

【成果の検証=北極星に対する子どもの変化(成長、成果)と課題】
成果
○委員会活動等で、明確な課題があるときは主体性が出て、やる気がアップしていた。
○高学年の子どもの中に、主体的に動ける子どもが増えてきた。
課題
○子どもが、どの場面でチャレンジしているか明確に把握していない。
○やらされ感がある。
○ふり返りをした後、次に生かすことができていない。

【努力の検証=学校ビジョンの取組課題の達成度】
実施できたこと
○学習の場、日常の場面で、肯定的評価(ほめる、認める)を意識することができた。
○できたこと、納得したことをほめることで子どもの自信につながった。
十分に実施できなかったこと
○活動の意味づけ、価値づけができていなかった。
○取組がすすんで、子ども任せ、真実なことができなかった。
○ふり返りを次に生かすことができていなかった。

次年度に特に重視したい(実現したい)子どもの姿
○自分からやりたい、やってみたいと言える子ども
○やり続ける子ども

次年度に向けた計画
①継続して実施する事項
○チャレンジする課題の設定
○振り返りを大事にする
②新たに追加、修正して取り組む事項
○子どもの良さを発見し、その子に合った肯定的評価を行う。
○教師は口出しをせず、子どもに任せる
③効果から見て、とりやめる事項なし

【1学期実践ミニレポート交流会】

実践ミニレポート NO. 8/6(月)

担当 校長 氏名 森下 裕一

【取組の柱】 肯定的評価を多くする

【資料の写真や児童の様子わかる写真等】
【児童の実態】
【子どもの声アンケート(5点満点)より】
【手立て】
【児童の姿容】

取組の柱に沿って実践したことを各自がレポートにまとめ、報告する。互いの実践から学ぶ点を確認し、今後の自らの実践に活かす。

【2学期実践ミニレポート交流会】

実践ミニレポート NO. 12/27(木)

担当 養護教諭 氏名 元吉 直子

【取組の柱】 ふり返りを大事にする

【資料の写真や児童の様子わかる写真等】
【児童の実態】
【子どもの声アンケート(5点満点)より】
【手立て】
【児童の姿容】

① 目指す子ども像に対する子どもの姿(成果と課題)を出し合う。
② 取組の3本柱に対する教職員の達成度を出し合う。
③ ①と②の整合性を確認し、内容を整理する。
④ 現在の子ども姿を検証し、次年度実現したい子どもの姿を話し合う。
⑤ 取組の柱に対する教職員の達成度から、取組の3本柱を検証し、次年度に向けた計画を練る。

参考: 管理職のための学校経営 R-PDCA
～内発的な改善力を高めるマネジメントサイクル～
鳴門教育大学理事 佐古 秀一 著

活動の成果等

〈肯定的評価の可視化〉 〈チャレンジの可視化〉 〈60デーの取組〉 〈PTA生活・広報部通信〉